三年後の涙

卒業式や学級解散式で、教師が涙を流すことはよくあります。私もよく涙を流しました。しかし、これが教師の醍醐味です。教師としての役目を果たしたのだと実感できる瞬間です。

私は三十七年間の教員生活で一度だけ、生徒が卒業して三年後に涙を流したことがあります。今日はその話を書きます。

実は、今朝その生徒と数十年ぶりに会いました。車の窓を開け、「先生！」と呼んでくれた彼は、平成六年度の旧瑞陵中の卒業生です。彼は野球部に所属し、三年間私は顧問として彼と関わりました。

中学時代には決して大きな体格ではなかった彼でしたが、野球愛は強く、一年の時から「中京高校の硬式野球部に入る」と宣言して三年間頑張りました。卒業後、念願の中京高校硬式野球部に入り、厳しい環境の中で、彼はレギュラー獲得に向けて頑張りました。

彼が高二の時です。新チームの主将に選ばれたという情報が入りました。そのころ、たまたま硬式野球部の関係者と話す機会がありましたので、私はその方に彼のことを尋ねました。すると、思ってもみなかった話が返ってきました。

「あいつは本当にすごいやつですよ。野球以上に人間的にすばらしいと思います。腰に爆弾を抱えていましてね。今でも月に一度、長野県に治療に通っています。練習中、かなり痛いはずですよ。でも、あいつは痛いということを絶対に口にしません。レギュラー下ろされてしまいますからね。主将として先頭に立って、皆と同じ練習をしていますし、夜も自主練習に取り組んでいますよ。」

それを聞いて、彼が技術的にも肉体的にも、そして、精神的にも大きく成長したことがわかりました。私は成長した彼の姿が見たくなり、何とか仕事の都合をつけて夏の県大会を見に行きました。確か、大垣北公園野球場。彼は六番中堅手として出ていました。彼のプレーに、腰を痛めていると思える様子はありません。しかし、痛みをこらえて必死にプレーしているかと思うと、私はつらい気もちになりました。劣勢で迎えた最終回。二死後のバッターは彼でした。最後のバッターにならないように、彼は必死に粘っていましたが、結局外野フライを打ち上げました。野手のグラブにボールが収まって、アウトが宣告されても、彼は一塁を全力疾走で回り、二塁に行こうとしました。

「T（彼のイニシャルです）、もう走らなくてもいいよ……。腰が痛いのなら無理するなよ……。」

こう思ったとたん、私の目から涙がこぼれました。彼は二塁の前で膝まづきました。これが、彼の高校野球が終わった瞬間であり、痛みとの闘いが終わった瞬間でもありました。

相手校の校歌が流れる中、泥で汚れたユニフォーム姿の彼が、ベンチ前で先頭に立って並んでいます。その姿を見て、私は再び涙を流しました。これが三年後の私の涙です。

（十二月十五日　記）